

[02_01]九州大学大型計算機センター広報 : 2(1)

<https://doi.org/10.15017/4843902>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 2 (1), pp.1-56, 1969-02-26. 九州大学大型計算機センター

バージョン :

権利関係 :



センター開設準備進捗状況

九州大学大型計算機センターでは、6月2日の米軍機墜落事故による建築工事の中断にもかかわらず、昭和44年1月開設を旨として準備を進めてきた。

6月以来、広報教育委員会においては、広報の編集、講習会の計画、指導員制度の検討等を行ない、業務委員会においては業務原案の検討、各種様式の決定、規則類の検討作成を行ってきた。しかしながら墜落機の機体処理問題に関連し建築工事の再開の目処がつかず、また仮設に関しても結論が出ないため、一応の検討を終えた業務委員会、広報教育委員会は10月に活動を一時中止し、仮設が決定した段階で作業を再開することになった。

9月には学外委員も決定したので第2回運営委員会が開催され、センター再建について報告、審議が行なわれた。一方センター側では学内外の仮設候補地約十カ所に対し室の配置、業務計画等仮設計画の作成を行なうと共にセンター開設遅延に伴う種々の問題の処理に当たってきた。

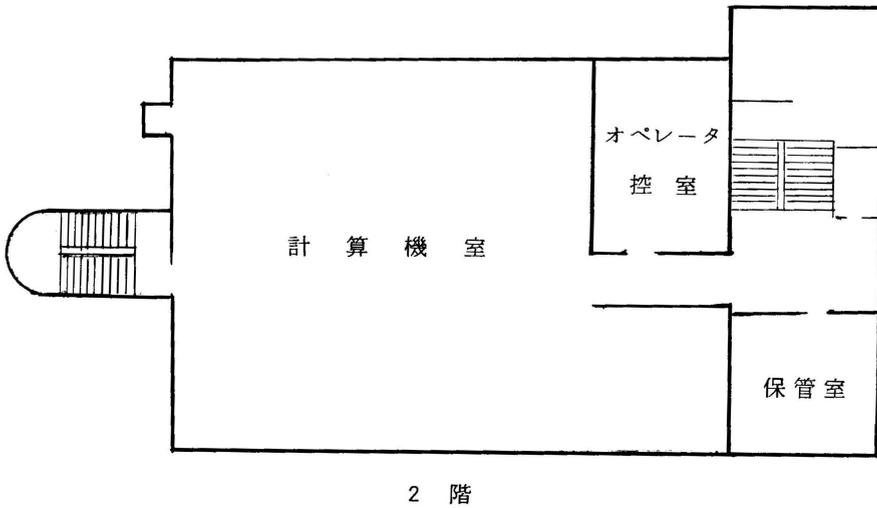
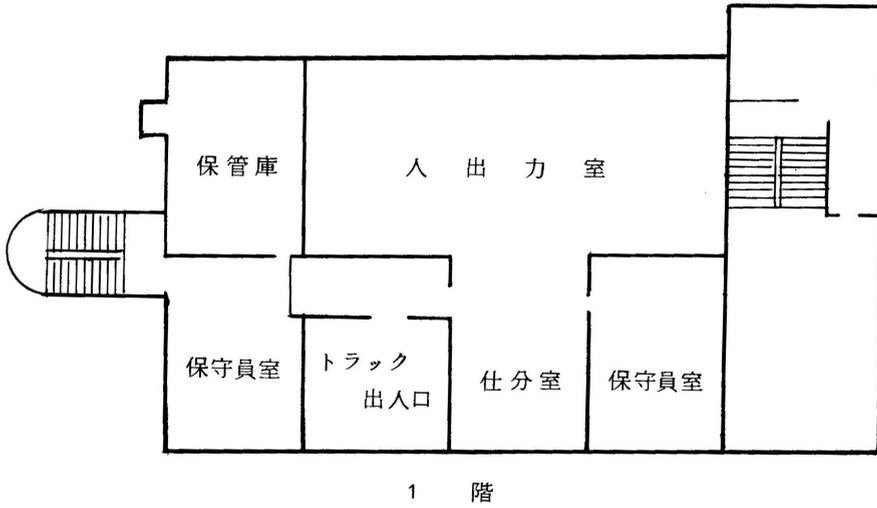
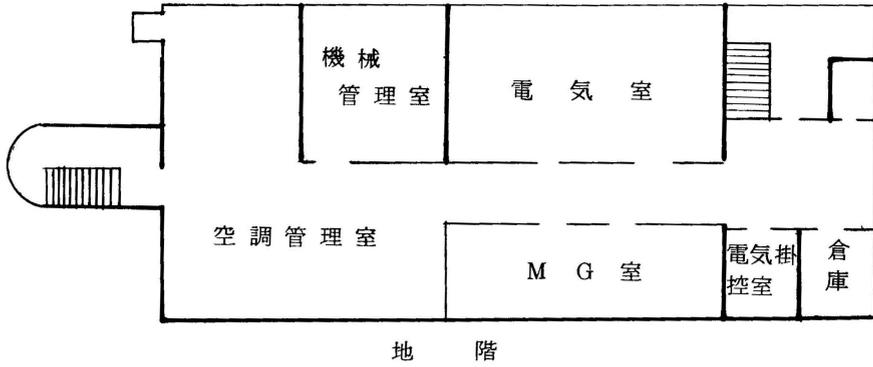
昭和44年に入り1月13日には、44年度センター予算約1.7億円が認められたため、仮設問題も大きく進展し、候補地も九州電力総合研究所跡(約600坪)にしぼられ、3月稼動開始を目標に努力が行なわれている。

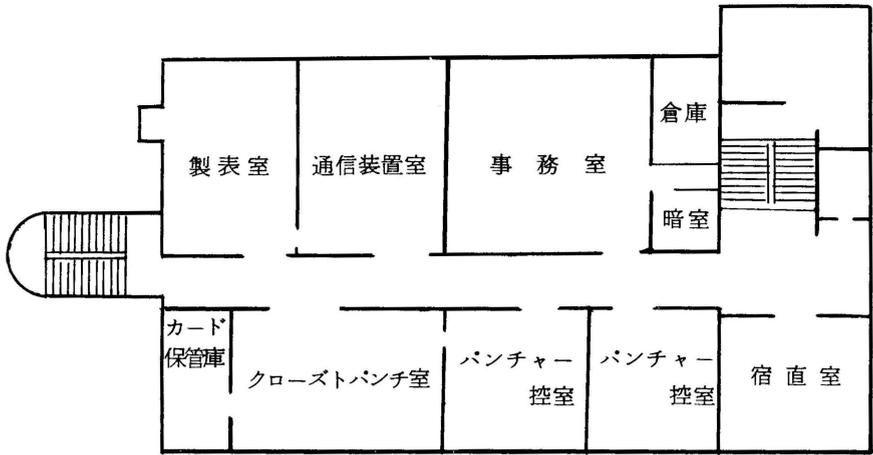
仮設に関する運営方式も業務委員会で検討されているが、利用者に直接接触する受付返却、オープンパンチ、プログラム相談の業務は箱崎キャンパスで、計算処理、クローズドパンチ、事務処理等は仮設センターで行なわれ、この間の輸送等に関しては仮設センターと箱崎キャンパスとの間に専用の自動車を走らせることにより、ターンアラウンドタイムの短縮をはかる予定である。

室に関しては通信工学教室より高周波実験室の1階2室(約110 m^2)を引き続いて借用できることとなり、ここにオープンパンチ室、プログラム相談室を置く予定であるが、受付返却室(80 m^2 程度)についてはまだ未定である。仮設センターの部屋割等に関しては1月31日現在で次図のようになっている。

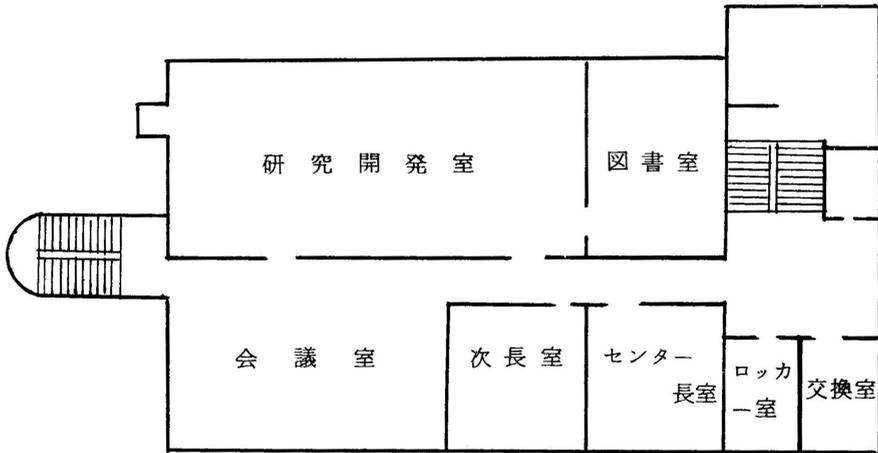
仮設大型計算機センター平面図
(九州電力総合研究所)

S: 1/300



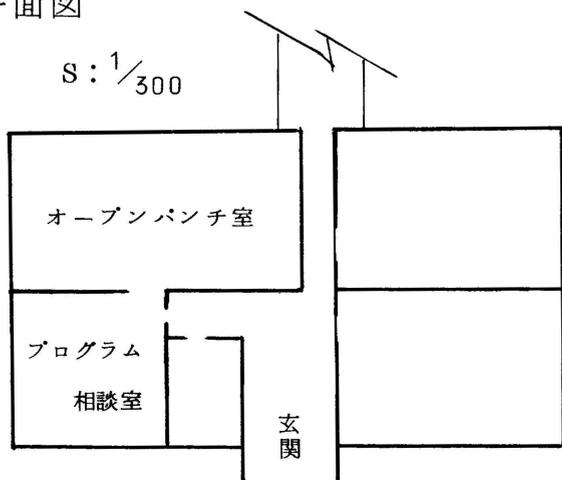


3 階



4 階

高周波実験室平面図



1 階